

仏法興隆花まつり千僧法要 慶讃文

薰風香り新緑眼に染みて供養の装いを凝らし、鳥は空に嘯りて梵唄の響きに和す。

慶讃の陽気愈々山内に充滿し給うこの日、敬って本尊盧遮那大仏、総じては仏眼所照一切三宝の境界に申し上げます。

今年で二十三回目を迎えますこの法要は、宗派を超えて青年僧が相集い、仏法の弘通と社会に対する貢献を誓い、それを実践することを目標にしています。天平仏教文化が花開いて、まさに今年は千三百年という節目にあたり、その想いを更に強くするものであります。

然しながら、昨今、長年に亘り年間の自死者が三万人を超え、また行き倒れの死亡者も年間三万人を超えているという現実があります。

現代社会の歪みの中で、追い詰められ、見放されていく人々に対し、私たちは生き心地のよい社会を作り出し、生きて行く希望を示さなくてはなりません。盧遮那大仏の造立は多くの人々に夢を与え、民衆が心一つにしてこの日本に仏国土を築きあげました。

私たち僧侶は祈りを行いながら、現代社会の中で、大衆と共に歩み、共に手を取り合うことが大切であります。

一人ではない、孤独ではない、全ての人が命の繋がりを感じられるような社会を目指さなくてはなりません。

この千僧法要は僧侶の連帯を強め、それぞれの役割を自覚させる法要でもあります。

茲に、別府市の和泉 徹氏が写経された大般若波羅蜜多経六百卷を共に転読をさせて頂いたことは、誠に悦ばしい限りであります。

仰ぎ願わくば、本尊盧遮那大仏、仏子らが悩志を哀愍せられ、華嚴世界の誓願無辺を以って、遍く一切の所願を成じ、仏法興隆、天下泰平、万民豊樂、更には世界平和ならしめ給わんことを
乃至法界 平等利益

惟時 平成二十二年四月二十六日

南都二六会会長 十輪院住職 橋本純信 敬白